

地方出版
情報誌

アクセス

毎月1回	1日発行
購読料	定価 150円 (本体 143円)
	年間 1,500円 (税込み)
振替	00120-0-19017

発行所 (株)地方・小出版流通センター
編集 アクセス編集委員会

〒162-0836 東京都新宿区南町20
TEL.03-3260-0355 FAX.03-3235-6182

筑波書林・菊田俊男さんの仕事

「先人たちの貴重な遺産を、いま、我々が消滅させてしまっただけ——」この訴えが、『ふるさと文庫』全500点に結実。単行本も合せ既刊本は900余点に

文・竹島 茂

隣り町に住んでいながら、迂闊にも、筑波書林の菊田俊男社長のご逝去を知らなかった。

位牌の脇に添えられたお写真は、昨年、金婚式を迎えられた際に撮影されたものだという。その穏やかなお顔の前で、奥様のまきさんからお話を伺った。私は、お位牌の前で手を合わせた直後に小さな手提げ袋をちょうだいしていた。冊子が入っている模様なので、早速、抜き取ってみた。

『土の薫り—ふるさと文庫完結記念文集—』とある。B5判で1センチぐらいの厚さ。奥付には、平成6年12月30日発行とある。15年前、菊田さんが刊行してきた『ふるさと文庫』の完結を記念してこんな文集ができていたのだ。『ふるさと文庫』のことは十分に承知していたし、近在の書店を営業で回るたびに、お店の中央付近にデンと構えて据えられた本箱にズラッと並んでいるところを見てきていた。

安価な価格で読者に提供

パラッと本を開くと、つくば市の男性の方が書かれた文章が、目に入った。

私が、はじめて「ふるさと文庫」に出会ったのは、実家の父に5冊の文庫本を見せられたのが最初でした。「文庫誕生のこぼし」を読んで、長い間、私がさがしていたものはこれだと思い、入会しました。

あの時以来今日まで、何回もの経済変動が起りましたが、筑波書林では決して値上げをせず、安価な文庫を読

者に提供してとうとう100回の配本を完了されました。

スタッフの皆様、16年間もの長い間本当に御苦労様でした。

こう書き出した筆者は、続けて、最近の郷土ふるさとが、開発による荒廃で大きく変貌したことを訴え、

「無秩序な乱開発の結果、親切であたたかかった人々の心は痛み、私たちの愛すべきふるすとは、思いもよらなかった犠牲を強いられています。人々はすっかり便利な生活に馴れて、生産活動の根源である自然への畏怖の念を失いつつあります。昔から伝わってきた村落の年中行事も殆ど行われなくなってしまいました。そのためか、人々の連帯感がうすれて、自分の生活のみを考え他人に対しては無関心の、心の貧しい人が多くなってしまったようです。

私の住んでいるつくば市北条周辺には、昔からの遺跡が数多くあります。特に身近にある中台古墳群や筑波廃寺跡は、長い間畑の下に埋もれて保存されてきました。ところが、中台古墳群は、住宅団地を建設する調査のために、つい先ごろまで毎日発掘調査が続けられ多くの出土品があったそうです。

このように、先人たちの貴重な遺産を、いま、我々が消滅させてしまっただけではないのでしょうか」と結ぶ。

この訴えが、やがて、つくば市を動かして、一つの大きな流れを形成していくことになっていった道筋を、私は、つくば市に25年以上住んで承知している。



筑波書林の新刊『筑波の山々と石たち』(本体価格1048円+税)

おそらく、この文集に寄稿している「ふるさと文庫」の会員や寄稿家たちの思いは、共通の文脈で繋がっているであろう。それでこそ、菊田さんの志が見事に受け継がれ、平成14年に一つの区切りがついた後も、編集出版の作業はそこで止まることなく継続され、今日に至っているのだ。そのリーダーが病に倒れて亡くなった。では、その後には……?

今後の出版活動には課題も

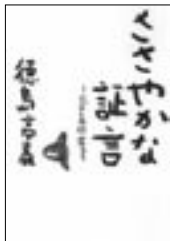
まきさんの書店回り(営業)は、俊男さんの亡くなる直前に一回試みられただけだったが、編集のお手伝いにはかなり以前から関わっていらした模様である。編集のお仕事は大変楽しかったそうで、できれば、主人の志を継いで続けたいともおっしゃっていた。ただ、先祖代々の土地まで担保にとられて……と、それだけを悔しそうに漏らしておられた。徳川時代から続く家柄でありながら、全財産を『ふるさと文庫』につき込んでこられた菊田さんのあとを継いで、どうして立て直すことができるのか。今、まきさんの前には、とてつもなく大きな課題が立ちだかっている。

(たけしま しげる・(株)ステップ代表)

新刊ダイジェスト

※価格は総額(税込)表示です。

『ささやかな証言 —忘れえぬ作家たち』 ●徳島 高義著



村上春樹「ノルウェイの森」の大ヒットは福猫のおかげ? 文芸雑誌「群像」編集部配属以来、39年の間に接した錚々たる作家の面々。講談社で辣腕をふるってきた著者が、佐藤春夫や吉行淳之介、大江健三郎など、故人・現役を織り交ぜ、20人の作家の横顔や作品誕生の道のりなどをあたたかな視点で描き出す。ラストには「忘れえぬ編集者」として著者が配属当初に「群像」の編集

長だった大久保房男も登場する。「自分の目で見、耳で聞いた事柄を辿りながら、関わりりの深かった文学者の有りようを浮かびあがらせたい」と願った著者。写真も取り入れながら、数々のエピソードが満載されている。

◆2625円・四六判・281頁・紅書房・東京・2010/2刊・ISBN978-4-89381-250-6

『sumus 第13号』 ●林 哲夫編



古本とその周辺を語る同人誌が六年ぶりに刊行された。特集は、小野二郎、中村勝哉が築いた「犀のマーク」晶文社。津野海太郎、島崎峻、中川六平ら名編集者をうみ、平野甲賀の装丁、植草甚一をはじめとするユニークな刊行物でお馴染みの版元を、様々な視点で語る。

「もっとも尖端的で、同時にもっとも伝統的、要するに語の根源的な意味でのラジカルな出版物

を出したい」とは1961年「創業の御挨拶」のことば。

出版が、一冊一冊積み重ね、ひとの中に〈新しい価値の創造〉という大きな道筋をつける確かな力をもつことを、本書を通し改めて感じた。

◆1575円・新書判・198頁・みずのわ出版・兵庫・2010/2刊・ISBN978-4-944173-76-1

『埼玉平野の成立ち・風土』 ●松浦 茂樹著



古代政權発祥の地である大和盆地はなぜ当時先進性を示し得たのか。大和盆地の河川は同じような流域面積を持つ多くの支川に分かれていたため、洪水エネルギーは小さく、古代の技術でも対処できた。一方、荒川と利根川という大河川を有する関東は、技術の進展をみた戦国時代になって初めて大規模な開発が可能になった。〈治水・利水・舟運〉という観点からは大和盆地がまさきに関

発されたのは必然だった。本書は埼玉平野の、主に河川整備の歴史を述べているのだが、こうした著者の歴史認識に見てとれる唯〈水〉史観とも言うべき視点がとても面白い。〈水辺〉を鍵概念とした埼玉県の地域づくりについても提言しているが、この視点は一貫している。

◆2625円・B5判・203頁・埼玉新聞社・埼玉・2010/1刊・ISBN978-4-87889-326-1

『雪と氷の世界から届いた地球温暖化の話 —山岳科学ブックレット2』 ●鈴木 啓助著



大気中の二酸化炭素の増加→地球の温暖化→雪や氷の減少、と簡単に言えるほど単純ではない。南極大陸を3035メートルの深さまで掘り出した氷柱には様々な記録が刻み込まれ、過去72万年にわたる気温、日射量、大気成分等がわかり、現在、分析中とのこと。

また、長野県を降雪量からみると、標高がやや低い野沢温泉、飯山、小谷等の豪雪地帯は減少傾向、一方、標高の高い白馬、菅平、開田高原等ではやや増加

傾向にある。これには冬季の気温が関係しているという。なお、雪は年間をとおして水供給資源として重要であるが、冬のスポーツや観光資源、天然の低温貯蔵庫、植物にとって重要な土の凍結を防ぐ「布団」としての役割も大きい。

◆980円・A5判・86頁・オフィスEMU・長野・2009/11・ISBN978-4-904570-12-8

『龍馬の影を生きた男 近藤長次郎』 ●吉村 淑甫著



坂本龍馬33歳、中岡慎太郎30歳、明治の夜明けを待たずして世を去った土佐勤王の志士である。今一人、龍馬配下の浪人結社「亀山社中」で、龍馬一の子分と云われ、29歳で亡くなった近藤長次郎の存在を知る人は少ないだろう。ハワイ在住の日系人移民研究者から、思いがけず曾孫の存在を知らされた著者は、直ちに曾祖父家族の住む小倉に馳せ参じ、様々な史料や証言を得る。餅菓子

屋の家に生れ、勤王志士の気風の中で育ったわけではなかった長次郎が、龍馬との関係の深かった画人河田小龍の元で学問を始め、勝海舟と出会い、龍馬に傾倒し、子も残しながら、長崎で非業の死を遂げる波乱の生涯を、生き活きと描き出す。

◆1365円・四六判・301頁・宮帯出版社・京都・2010/1刊・ISBN978-4-86366-069-4

売行良好書

期間：2010年2月16日～3月15日

[出荷センター扱い] ※税込み価格

- (1)『ゆりちかへ』1365円・書肆侃侃房 (2)『ろう者のトリセツ 聴者のトリセツ』1260円・星湖舎 (3)『新装版 不思議の国のアリス・オリジナル』2100円・書籍情報社 (4)『機能不全大家族』1600円・アートヴィレッジ (5)『作っておくと、便利なおかず』1260円・ベターホーム出版局 (6)『妊娠』2940円・洛北出版 (7)『見る読むわかる野鳥図鑑』840円・日本野鳥の会 (8)『子どもを生きれば おとなになれる』2100円・アスク・ヒューマン・ケア (9)『めざせ！ポジティブADHD』2100円・書肆侃侃房 (10)『なせば成る！』840円・山形大学出版会 (11)『九重山 法華院物語 山と人』2100円・弦書房 (12)『自閉症の子どもたちの生活を支える』1575円・筒井書房



[三省堂書店神保町本店4F—センター扱い図書] ※税込み価格

- (1)『東京かわら版 3月号』420円・東京かわら版 (2)『sumus 13』1575円・みずのわ出版 (3)『円周率 100万桁表』330円・暗黒通信団 (4)『詳細地図でめぐる 土佐 龍馬』1470円・高知新聞社 (5)『御柱祭ガイドブック』500円・信濃毎日新聞社 (6)『武田氏年表 信虎・信玄・勝頼』2625円・高志書院 (7)『隅田川を遡る』1260円・揺籃社 (8)『三成伝説』1995円・サンライズ出版 (9)『北国街道を歩く』1785円・信濃毎日新聞社 (10)『虚子百句』840円・創風社出版

[ジュンク堂書店新宿店—センター扱い図書] ※センター出荷データより/税込み価格

- (1)『ami <アミ>』1575円・ピリケン出版 (2)『sumus 第13号』1575円・みずのわ出版 (3)『円周率 1,000,000 桁表』330円・暗黒通信団 (4)『見る読むわかる野鳥図鑑』840円・日本野鳥の会 (5)『本の雑誌 No. 321』680円・本の雑誌社 (10)『いそっぷのおはなし』1680円・グランまま社 (7)『NO! 116』300円・海鳥社 (8)『隅田川を遡る』1260円・揺籃社 (9)『鹿島アントラーズ 三連覇』1000円・茨城新聞社 (6)『タロットルーン ラブ・リーディング』1680円・魔女の家BOOKS

以下ホームページでも各種情報提供を行っております。ご利用ください。
<http://www.bekkoame.ne.jp/~much/>

トピックス —★★★

▼数独がビジネス書に

〈数独の父〉の称号をもち、欧米で絶大な人気を博するニコリの鍛冶真起社長が、メディアファクトリーから『数独はなぜ世界でヒットしたか』(1155円)という本を出版しました。今やSUDOKUとして世界中で熱狂的愛好家をもつ数独ですが、本書はビジネス書に分類される内容だそうです。これを記念して、ジュンク堂新宿店では3月27日に鍛冶さんのトークイベントが開かれ、4月中旬頃まで、数独を中心としたパズルフェアが8Fで開催されます。

▼東京堂がリニューアル

これまで東京堂神田本店3Fにあった地方小トリプレスコーナーが3月1日より、斜向いにあるふくろう店に移動し、リニューアルしました。

▼第35回木村伊兵衛写真賞

写真界の芥川賞と形容される木村伊兵衛写真賞ですが、一昨年の志賀理江子さん(『CANARYカナリア』5250円)、昨年の浅田政志さん(『浅田家』2730円)に続いて、今年も赤々舎から写真集を刊行した写真家・高木こずえさんに決まりました。『MID』(4515円)および『GROUND』(1890円)の2作品が評価されました。有望な若手写真家の作品を多く手がけているということ、そして、娯楽性と作家性という両極があるとするなら、どの作品も作家性のほうに大きく振れた写真集がほとんどであることが、赤々舎とこの賞との相性がいい要因ということなのでしょう。

郵便販売のご注文方法

◎お名前、お届け先(郵便番号、住所)、連絡先お電話番号、ご注文品の書誌名、冊数の必要事項を明記のうえ、下記までFAXでご連絡ください。


◎送料は、冊子小包・メール便共実費でお送りさせていただきます。基本的にメール便は、一冊210円でお送り致します。(メール便の到着は、発送してから3~4日かかります。)お急ぎの方、その他ご要望がございます場合はお気軽に下記までお問い合わせ下さいませ。

◎なお書籍お買上総計(税抜き価格)が5,000円以上の場合は、送料をサービスさせていただきます。

★地方・小出版流通センター

FAX: 03-3235-6182

地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。



三省堂書店

BOOKS SANSEIDO

神保町本店 4階
地方出版・小出版物フロア

営業時間 10:00 AM ~ 8:00 PM
 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1
 TEL. 03-3233-3312(代)
 URL. <http://www.books-sanseido.co.jp>

**営業の
ごあんない**

本店4階売場では、地方・小出版流通センター扱いの新刊全点のほか、地域別に書籍を取り揃えております。また、地域ならではのタウン誌、趣味の雑誌も扱っております。

